

鳥居龍蔵のセデック語語彙集（1901）への注釈

落合いずみ

（受付：2023年4月17日，受理：2023年6月30日）

Annotation to Ryuzo Torii's Seediq glossary (1901)

Izumi OCHIAI

摘 要

鳥居龍蔵は「台湾埔里社霧社蕃の言語（東部有黥面蕃語）」と題した論文を『東京人類学会雑誌』に三度寄稿し、セデック語パラン方言の語彙集を著した。そのうちの第一篇と第二篇は1900年に出版されたものであり、これらにおけるセデック語の語彙についてはOchiai（2018）によって現代セデック語との比較の上で、注釈と分析がなされた。鳥居による第三篇は1901年に出版されたものである。その内容は単語よりも句や節レベルの表現を中心にしている。それら表現は現代セデック語との隔たりが大きいため、Ochiai（2018）では考察の対象から外れた。ただし、本稿は第三篇も資料としての価値は第一篇・第二篇に劣らないと考える。そのため本稿では、現代セデック語とかけ離れた句や節の統語構造を扱うのではなく、それらを構成する単語レベルにおける注釈をOchiai（2018）に模して現代セデック語との比較の上で示し、Ochiai（2018）の正誤表も付す。

キーワード：鳥居龍蔵 セデック語 語彙集

1. はじめに

本稿は鳥居龍蔵が1901年に記録したセデック語パラン方言の語彙集（鳥居 1901）に対して、現代セデック語パラン方言に照らし合わせて注釈を与えるものである。

2. 背景

人類学者として著名な鳥居龍蔵は1900年初頭に台湾を訪れ、1900年から1901年にかけて三回、東京人類雑誌に「台湾埔里社蕃の言語（東部有黥面蕃語）」と題する論文を寄稿している。台湾先住民族の1つであるセ

¹ 帯広畜産大学人間科学研究部門

¹ Department of Human Sciences, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine

連絡先：落合いずみ，i.ochiai@obihiro.ac.jp

デック族の言語を記録した語彙集である。セデック語は台湾先住民族の言語の1つであり、オーストロネシア語族アタヤル語群に属する。セデック語はパラソ方言とトゥルク方言に大別される。鳥居 (1900a: 474) は台湾の中央に位置する埔里という街で2人のセデック族の女性 Temi Rulung と Iwan Robaw に就き、彼女らの言語を調査したことが述べられている。彼女らは霧社と呼ばれる地域出身の話者の方言であり、セデック語パラソ方言に相当する。

3件の論文のうち、第1件 (鳥居 1900b: 71-74) と第2件 (鳥居 1900c: 100-104) は1900年に発行されたもので、第3件 (鳥居 1901: 133-137) は1901年に発行されたものである。第1件と第2件の語彙集では名詞や動詞など語レベルの項目を挙げているのに対し、第3件の語彙集では節や句を扱っている。

このうち、語レベルの項目を扱った鳥居 (1900b, 1900c) については、Ochiai (2018) で解題と考察が示された。節や句を扱った第3件は、現代セデック語パラソ方言との文法的な隔たりが大きいいため、Ochiai (2018) では解題の対象から外した。第3件に示された節や句の表現は、現代セデック語パラソ方言の視点からいえば、逸脱した語順や不適切な語の使用が頻出する。これは1900年前後の調査において、日本人調査者や、漢民族の通事ら、セデック語を母語としない人たちが、自らの母語 (日本語や漢語方言) の文法に影響され、セデック語母語話者たちから自らの母語 (日本語や漢語方言) に近づくように歪められたセデック語を引き出したからと考えられる。落合 (2020: 122) によると同様の状況が、同時代にセデック語パラソ方言を記録した語彙集である荒尾 (1898) にも見られる。

このことは、日本時代に主に警察官などによって収集された台湾先住民族の語彙集について浅井 (1954: 15) の以下の記述にも裏付けられる。『警察官に蕃通なる一群があつて、本務の外講習会の講師をしたり、「語集」類の編輯を命ぜられたりした... 優秀な語学者もあつたが、中には蕃人よりも出来ると自負する蕃通も現れて来た。警察で講習する蕃語は Basic 蕃語、悪く言えば

Pigeon 蕃語であつた。警察官に云うときはこう云うが、我々同志ではこう云うのだと説明する informants がある位である。』

セデック語パラソ方言の句や節を取り上げた語彙集である鳥居 (1901) は、そのピジン語的な特徴のため、セデック語の早期資料としての言語的価値は低い。しかし、その句や節を構成するそれぞれの語のレベルでは、その時代の語彙資料としての価値があると考えられる。そのため、本稿は鳥居 (1900b, 1900c) への注釈を著した Ochiai (2018) の続きとして、鳥居 (1901) に対する句や節の注釈を示し、鳥居の一連の語彙集の注釈を完結する。本稿における注釈は筆者が2010年代に断続的に行ったセデック語パラソ方言のフィールド調査に基づく。

ただし、鳥居の一連の語彙集における統語的特徴はピジン語的性格を帯びているため現代セデック語と異なる。特に句や節を多く扱った鳥居 (1901) ではその傾向が強い。鳥居 (1901) のセデック語が現代とどう異なるかなどについて本稿では触れないが、同様にピジン語的性格を帯びたセデック語を記録した荒尾 (1898) の解題を示した落合 (2000: 116-122) を参照されたい。

3節では鳥居 (1901) のデータとそれに対する本稿の注釈などを示す。この他、2つの付録を付けた。付録1では、鳥居 (1901) に出現したセデック語パラソ方言の語について、現代セデック語パラソ方言において対応する語に変換し、語彙表として掲げた。それらのうちの動詞について、語根のままで現れているもの以外は、それらの形態素分析と注釈も括弧内に付した。付録2では Ochiai (2018) の正誤表を示した。

現代パラソ方言の音素目録は、母音 /a, e, i, o, u/, 二重母音 /uy/, 子音 /p, b, t, d, c [tʰ], k, g, q, s, x, h, l, r[r], m, n, ŋ, y [j], w/ である。これに対し、鳥居 (1901) と同時代に記録された荒尾 (1898) によると、早期パラソ方言の音素目録は、母音が /a, i, u, ə/, 二重母音 /aw, ay, uy/, 子音 /p, b, t, d, c [tʰ], ð, k, g, q, s, x, h, l, r[r], m, n, ŋ, y [j], w/ である (落合 2020)。

3. 鳥居 (1901) のセデック語パラソ方言の語彙集とそれに対する注釈¹

表1に鳥居 (1901) に挙げられた項目を取り上げる。項目は148あり、本稿はそれらに番号を振った。各項目は鳥居による日本語見出しに続き、それに対するローマ字表記のセデック語の表現が続く。鳥居による注釈が付されている場合は脚注に記した。ここまでが鳥居 (1901) のデータの写しである。次に本稿筆者の注釈などが続く。まず、[]の中に示したのは、鳥居によるセデック語表記に対し、本稿筆者が音韻的解釈を与え、鳥居の調査当時のセデック語の音韻的特徴を考慮した上で書き直したものである。下の行に斜体で示したのは、[]の中のそれぞれの語を現代セデック語に置き換えたものである。語の区切りにコンマを挿入している。上述のように、鳥居 (1901) はピジン語的性質を帯びたセデック語を著したものであり、それを逐語、現代セデック語パラソ方言に置き換えてもほとんどの場合、統語的に不適合な表現になっていることに留意されたい。本稿ではあくまで、語レベルでの新旧の対応を見ることを目的とし、現代セデック語パラソ方言への置き換えを示した。

以下、表1における表記上の注意点について述べる。鳥居 (1901) はセデック語をローマ字で表記しているが、

その中に ch に下線が引かれたもの「ch」が見られる。この表記を用いる音について、鳥居 (1900b: 71) で、「乙の ch の如き発音あり。こは読者の注意の爲め ch としたり」と述べる (3節参照)²。

また、鳥居 (1901) の表記では語の上側に字体の小さな文字が付されていることがある (項目3など)。表1の左欄ではそれらも、できるだけ原典に忠実に再現した。

また、鳥居 (1901) の表記では、母音の上に棒が引かれていることがある (項目31など)。これはその母音が音聲的に長めに発音されることを示したかったと考えられる。

ほかに、鳥居 (1901) の表記では、母音の上や子音の後に「'」の符号が付されていることがある (項目40など) が、これに関しては何を示しているか不明である。

鳥居 (1901) は語の上に、日本語で意味を付している場合もあり、表1の左欄ではそれらの日本語による注釈も再現しているが、読み取れない文字もある (項目81と148)。それは■で示した。

次に、右から二列目の音韻的解釈であるが、三音節以上から成る語についての音韻的表記については、アクセントの落ちる次末音節より前の音節、つまり次々末音節は母音の弱化を経て曖昧母音化していたと考え、曖昧母

¹鳥居 (1901) では項目1から57は「代名詞と動詞との結合」、58は「代名詞と名詞の結合」、59から92は「名詞と動詞との結合」、93から103は「名詞と名詞との結合」、104から117は「動詞の結合」、118から130は「形容詞と名詞との結合」、131から148は「名詞と名詞との結合」という見出しを付けている。ただし、これらの見出しが項目内の句や節とはそぐわないことも多いため、混乱を避ける目的で本稿では見出しを除いた。

²このほか鳥居 (1901b: 71) が「mとbの中間の音あり」「lとdとの中間の発音もあり」と述べているが、この混乱的状况を示すように表1のデータ中にはmとbについて、鳥居 (1901) と現代セデック語パラソ方言との間で逆に現れる語が見られる (81 Maebu, 89 Vu lukosh, 122 Vutanaha, 130 mehegai)。同様の混乱が荒尾 (1898) にも見られることが、落合 (2020: 69-70, 90-91) に述べられている。また、lとdとの混乱については (Ochiai 2018: 134-135) でも扱っているが、鳥居 (1901) の時代における共時的混乱を示しているかもしれない。同一の語 (3 shediakka, 46 shielekka, 143 sheleyakka)、または同一の語から派生された語 (23 didil, 83 limilil) においてlとdの両方で表記された項目が見られる。このほか鳥居 (1901) ではdで表記しているが、現代セデック語パラソ方言ではlで現れる語が87 Dumigishと90 Deiviの2つ見られた。同様の混乱が荒尾 (1898) にも見られることが、落合 (2020: 74-75, 88-89) に述べられている。

音əで表記することとした³。ただし、例外があり、次末音節のオンセットがhの場合は、hの直前に当たる次々末音節の母音は、hの直後の母音に同化する（例えば、項目60の音韻的解釈 [beheni] 「鳥」）。

なお、以下において表記に言及する際、直立体（斜体ではない）を用いる場合は出典である鳥居（1901）における表記を表し、斜体を用いる場合は、現代セデック語パラソ方言における表記を表す。

表1 鳥居（1901）によるセデック語パラソ方言の語彙集と注釈

	鳥居（1901）の項目	鳥居（1901）の表記	本稿の音韻的解釈	現代セデック語において相当する語
1	我見ん	Yakko mita.	[yaku mita]	<i>yaku, qumita</i>
2	我に見せよ	Ita mita yakko.	[ita mita yaku]	<i>ita, qumita, yaku</i>
3	彼に聞く	^{um} Vanansu shediakka. ⁴	[umbahaŋ su seediq]	<i>umbahaŋ, su, seediq</i>
4	我知る	Mukela yakko	[mækela yaku]	<i>mukela, yaku</i>
5	彼知らず	Ini kela.	[ini kela]	<i>ini, kela</i>
6	我泣く	Lemigishiku yakko.	[ləmiŋis ku yaku]	<i>lumijis, ku, yaku</i>
7	我泣かぬ	Ini ligishi yakko.	[ini liŋis yaku]	<i>ini, liŋis, yaku</i>
8	我は笑へり	Yakko mubulishi.	[yaku məhulis]	<i>yaku, muhulis</i>
9	我買はん	Yakko burigon.	[yaku bəriɡun]	<i>yaku, burigun</i>
10	彼は座す	Ishio mejah̄ tereun hini.	[isu meðah̄ təleuŋ hini]	<i>isu, meyah, tuleuŋ, hini</i>
11	我は座せん	Tereun yakko.	[təleuŋ yaku]	<i>tuleuŋ, yaku</i>
12	我は行かん	Maha yakko.	[maha yaku]	<i>maha, yaku</i>
13	彼は去れり	Kiya nanoku wada temaran.	[kiya nanaq wada təmalan]	<i>kiya, nanaq, wada, tumalan</i>
14	我は寝る	Takk ^{ai} yakko.	[taqi yaku]	<i>taqi, yaku</i>
15	汝は座せよ	Terun hini ishio.	[təleuŋ hini isu]	<i>tuleuŋ, hini, isu</i>
16	汝来れ	Ishio mejaha.	[isu meðah̄]	<i>isu, meyah</i>
17	汝に與へん	Nakakaya mejo ishio. ⁵	[qəqəya megay isu]	<i>quqəya, mege, isu</i>
18	我に與へん	Mega yakko.	[mege yaku]	<i>mege, yaku</i>
19	汝は食を終りしや	Munekan ishio.	[mənekan isu]	<i>munekan, isu</i>
20	我食を終る	Mutegi yakko.	[məteŋi yaku]	<i>mutəŋi, yaku</i>
21	汝に聞くべきことあり	Shiumiri gisu hareli.	[səmilij isu hari]	<i>sumilij, isu, hari</i>
22	我は喜ぶ	Makarasuku varai.	[məqaras ku balay]	<i>muqaras, ku, bale</i>

³これは表記を統一的に示すための方策であり、Ochiai（2018）もそのように表示しているが、セデック語パラソ方言において次々末音節が20世紀初頭の時点ですべて曖昧母音化していたかどうかについて十分な研究はなされていない。今後の検討課題である。

⁴鳥居（1901）による注釈として「三人称は独立したる代名詞なく単に「人」を以て示せり」とある。これに関し、現代セデック語における三人称は指示詞に由来する語を用いるが（Ochiai 2022）、落合（2024）は早期のセデック語では二人称と三人称が同一の形式で表されたのではないかとの見解を述べている。

⁵1 語目にある Nakakaya における語頭の Na の部分は音声的ノイズと考えられる。

23	我は持たず	Ine didil yakko.	[ini didil yaku]	<i>ini, didin, yaku</i>
24	我は考ふ	Yakko mugerun.	[yaku məŋerun]	<i>yaku, lumuŋelun</i>
25	何処より来りしや	Munerasu inu.	[məneðah su inu]	<i>muneyah, su, inu</i>
26	此処に来れ	Ago hini.	[aguh hini]	<i>aguh, hini</i>
27	明日此処に来れ	Tsuaman Yeja hini.	[caman eðah hini]	<i>caman, eyah, hini</i>
28	明後日あそこに行け	Mukahana haja ishio.	[mukaxa haða isu]	<i>mukaxa, haya⁶, isu</i>
29	これは何か	Manō wo kaya.	[manu qəqeya]	<i>manu, quqeya</i>
30	これは芋なり	Sari higa.	[sari hiða]	<i>sari, hiya</i>
31	何と云ふ名か	Mā nun gādan	[maanu ŋaðan]	<i>maanu, ŋayan</i>
32	何時来るや	Shinuan mezahi.	[sənuan meðah]	<i>sukunuan, meyah</i>
33	此物は蕃袋なり	Kerai hiza.	[keray hiða]	<i>kere, hiya</i>
34	今日は暑し	Mutta teruhu saza.	[mətətɪlux saða]	<i>mutɪlux, saya</i>
35	今日は寒し	Sasan mushikkui.	[saða məsekuy]	<i>saya, musekuy</i>
36	それは善い	Marru haza.	[malu haða]	<i>malu, haya</i>
37	これは悪し	Nakach hiza.	[naqah hiða]	<i>naqah, hiya</i>
38	其れは不正なり	Ohui kizaha.	[uxe kiða ha]	<i>uxe, kiya, ha</i>
39	此れは私の過失なり	Nakach yakko.	[naqah yaku]	<i>naqah, yaku</i>
40	彼は怒て居る	Maséan varai hiza.	[məsean balay hiða]	<i>museyan, bale, hiya</i>
41	彼を呼び来れ	Usa mirawa. ⁷	[usa məlawə]	<i>usa, lumawa</i>
42	今日はよき天気なり	Sajasa marro hara ¹ .	[saða sa malu karat]	<i>saya, sa, malu, karac</i>
43	今日は悪しき天気なり	Nakach karat sajasa.	[naqah karat saya sa]	<i>naqah, karac, saya, sa</i>
44	汝等は騒し	Shivu viratt varai.	[səbəbirat balay]	<i>sumbirac, bale</i>
45	汝らは静かにすべし	Karan yamun.	[qaraw yamu]	<i>qaro, yamu</i>
46	我は疲れたり	Yakko mutakan shielekka.	[yaku mətaqi seediq]	<i>yaku, mutaqi, seediq</i>
47	我は睡たくなりぬ	Kuhul takkai yakko.	[kuxul taqi yaku]	<i>kuxun, taqi, yaku</i>
48	我は腹が減り来れり	^{ma} Urai yakko varai.	[məurai yaku balay]	<i>muure, yaku, bale</i>
49	我は口がかわきぬ	Mudego kwakach.	[mədeŋu quwaq]	<i>mudeŋu, quwaq</i>
50	彼は病気なり	Munaroku kiza.	[məmarux kiða]	<i>munarux, kiya</i>
51	彼は快き方なり	Marro hari.	[malu hari]	<i>malu, hari</i>
52	彼の人は死せり	Muho kail hiza.	[məhuqil hiða]	<i>muhuqin, hiya</i>
53	我は風をひけり	Shekkui yakko.	[sekuy yaku]	<i>musekuy, yaku</i>
54	誰が我を呼で居るや	Imā mirawa yakko.	[ima məlawə yaku]	<i>ima, mulawa, yaku</i>
55	我に茶を興へよ	Itta kashiya mitta tiluhu.	[ita qəsiya mətətɪlux]	<i>ita, qusiya, mutɪlux</i>
56	何處に住居なすや	Inu aran ishio miso.	[inu alaŋ isu misu]	<i>inu, alaŋ, isu, misu</i>
57	是は我々の酋長なり	Nami vasuran hiza	[nami bəsuran hiða]	<i>nami, qubusuran, hiya</i>
58	汝の煙管	Yakko sappach.	[yaku sapah]	<i>yaku, sapah</i>

⁶この形式は項目 36 にも現れるが、現代パラン方言では単独では用いられず、派生形のみが見られる（脚注 17 参照）。

⁷鳥居（1901）による注釈として「姓名を附すべし」とある。

59	鹿は走る	Tamarun akainuhu.	[təmalan əqaynux]	tumalan, ruqeunx
60	鳥が飛ぶ	Sukiya veheni.	[səkiya beheni]	sukiya, (qu)beheni
61	米あり	Gaga palai.	[gaga paðay]	gaga, paye
62	酒無し	Uka shinuhu.	[uka sinaw]	uka, sino
63	雨降る	Kamuzuhu.	[qəmuðux]	qumuyux
64	石を投げる	Shikada vatunuhu.	[səqada bətunux]	suqada, butunux
65	風が吹く	Vugihul.	[bəgihur]	bugihun
66	衣服を洗ふ	Muhu lukush.	[mahu lukus]	mahu, lukus
67	木を伐る	Pakol kunishiu.	[paqun qəhuni su]	paqun, quhuni, su
68	飯を食ふ	Mekani idau.	[mekan idaw]	mekan, ido
69	水を飲む	Minaha kashia.	[mimah qəsiya]	mimah, qusiya
70	肉を食ふ	Mekanni hevi.	[mekan heði]	mekan, hei
71	食事をなせ	Mekani ido ishio.	[mekan ido isu]	mekan, ido, isu
72	椅子に腰を掛ける	Teren akkatsui.	[təleuŋ gakac]	tuleuŋ, gakac
73	座せよ	Teren.	[təleuŋ]	tuleuŋ
74	直段は何程なりや	Kainoha vagan.	[kainu həbaŋan]	kenu, hubaŋan
75	火を燃す	Tawo puniyakka.	[tahu puniq]	mutahu, puniq
76	魚は泳ぐ	Wada turuhu.	[wada curux]	wada, qucurux
77	子を負ふ	Mappa rakkai.	[mapa laqi]	mapa, laqi
78	女は縫ふ	Shūmashi lukosh makaidil.	[səmais lukus məqaydil]	sumais, lukus, muqedin
79	男が耕す	Tamabul kunepach.	[tumabul kənepah]	tumabun, kunepah
80	病は癒たり	Marrun narohu.	[malu mənarux]	malu, munarux
81	人が狗を殺す	Maevu hulin shedakka wada muhokel.	[məebu hulin seediq wada məhuqil]	beebu, hulin, seediq, wada, muhuqin
82	猫は鼠を咬む	Kamiliát kasulitsu nyau.	[qəmiðut qawlic ŋiaw]	qumiguc, qolic, ŋiyo
83	子供が花を持つ	Rakkai limilin paipach. ⁸	[laqi dəmidin pəhepah]	laqi, dumidin, pəhepah
84	燃ゆる火	Shikama puniyakka. ⁹	[səqama puniq]	suqama, puniq
		Sulunda puniyakka. ¹⁰	[sələmaq puniq]	sulamaq, puniq
85	焼きたる肉	mudu ^{ha} heza.	[muduh heði]	muduh, hei
86	紙を焼く	Shikama ravui.	[səqama labuy]	suqama, kulabuy
87	涙を流す	Dumigish toten rossok.	[ləmiŋis tutiŋ rusuq]	luminiŋis, tutiŋ, rusuq

⁸二語目の limilin (現代セデック語パラソ方言は *dumidin*) は、項目 23 に現れる didil (現代セデック語パラソ方言は *didin*) から派生された形式である。鳥居 (1901) の時代に収集された語彙集である Bullock (1973) において、語末子音の *l* はそのまま保たれているのだが、現代セデック語パラソ方言では *n* に変化した (Ochiai 2016 : 318-319)。鳥居 (1901) の挙げた limilin は、本来なら didil のように語末子音は *l* で現れるはずだが、なぜか *n* に代わっている。これは語末子音の *l* から *n* への変化の端緒を示す一例かも知れない。

⁹鳥居 (1901) による注釈として「ちよろちよろの火」とある。

¹⁰鳥居 (1901) による注釈として「非常に燃ゆる火」とある。

88	鞋を棄つ	Psai sap'it.	[pəsai sapit]	<i>pusai, sapic</i>
89	衣服を着る	Vu lukosh.	[məlukus]	<i>mulukus</i>
90	戸を閉ぢよ	Deivi sappasu.	[lebi sapah su]	<i>lebi, sapah, su</i>
91	明りをつけよ	Harui harun.	[hərui haruŋ]	<i>hurui, haruŋ</i>
92	酒を飲め	Mimashi nau.	[mimah sinau]	<i>mimah, sino</i>
93	昔の話	karr'e chibeyau	[kari cəbeyaw]	<i>kari, cubeyo</i>
94	鶏の卵	Varrun rodudu	[baluŋ rodux]	<i>baluŋ, rodux</i>
95	女の子	Rakke makaidil	[laqi məqaydil]	<i>laqi, muqedin</i>
96	豚の兒	Vērō	[beru]	<i>beru</i>
97	竹の葉	wassa buttakan	[wasaw bətakan]	<i>waso, butakan</i>
98	竹の枝	chidá buttakan	[cida bətakan]	<i>cida, butakan</i>
99	夕やけ	mutanach pushu	[mutanah pusu]	<i>mutanah, pusu</i>
100	曇天	parrabú tudijun	[pələbu tədiðun]	<i>pulabu, tudiyun</i>
101	鹿の兒	Wawa okkainuhu	[wawa əqaynux]	<i>wawa, ruqenux</i>
102	鹿と犬	Okkainuhu mā hulin ¹¹	[əqaynux ma huliŋ]	<i>ruqenux, ma, huliŋ</i>
103	蚊と蜂	tudijun mā kui	[tədiðun ma kui]	<i>tudiyun, ma, kui</i>
104	來り話せ	Meja hini itta puregau kare.	[meðah hini ita pəreŋaw kari]	<i>meyah, hini, ita, pureŋo, kari</i>
105	來り見る	Mejaha mitta.	[meðah mita]	<i>meyah, mita</i>
106	噪ぐ勿れ	Yeggo kwakka karen kari.	[egu quwaq qaraw kari]	<i>egu, quwaq, qaraw, kari</i>
107	來らず	Ine yejach.	[ini eðah]	<i>ini, eyah</i>
108	差支なし	Ine hawat.	[ini huwa]	<i>ini, huwa</i>
109	食はぬ	Ine yekkan ishio.	[ini ekan isu]	<i>ini, ekan, isu</i>
110	何を爲す乎	Manu sumaru.	[manu səmalu]	<i>manu, sumalu</i>
111	自ら作る	Yakko sumaru.	[yaku səmalu]	<i>yaku, sumalu</i>
112	速く來れ	Aguhari mazaha.	[aguh hari meðah]	<i>aguh, hari, meyah</i>
113	徐かに行け	Mussa wammu ¹ .	[musa ---]	<i>musa</i>
114	多く食ふ	Varau vezahu.	[baraw beðax]	<i>hubaro, beyax</i>
115	強く打て	Vezahu vevu.	[beðax beebu]	<i>beyax, beebu</i>
116	甚だよし	Varai marū.	[balay malu]	<i>bale, malu</i>
117	大に笑ふ	Yeggun muhulish.	[egu məhulis]	<i>egu, muhulis</i>
118	好き天氣	marru karatu	[malu karat]	<i>malu, karac</i>
119	よき食物	marru pukun	[malu puqun]	<i>malu, puqun</i>
120	小さき魚	suluhu tekkuch	[surux tikuh]	<i>qucurux, tikuh</i>
121	大なる鳥	paro veheni	[paru beheni]	<i>paru, (qu)beheni</i>
122	赤き花	vutanaha paipoch	[mətanah pehepah]	<i>mutanah, pehepah</i>
123	白き砂糖	vehegai kamuchiá	[behegay kəməcia]	<i>behege, kumuciya</i>
124	黒き炭	mukaluch vagach	[məqalux bagah]	<i>muqalux, bagah</i>

¹¹ 鳥居（1901）による注釈として「ma はさうしてなり」とある。

125	青き草	musama shuidu	[məsama sudu]	<i>mugusama, sudu</i>
126	橋狭し	hakkabu tekkuch	[hakaw tikuh]	<i>hako, tikuh</i>
127	道濶し	paro yels	[paru elu]	<i>paru, elu</i>
128	山高し	havaralu mikko	[həbaraw ləmiqu]	<i>hubaro, lumiqu</i>
129	河深し	qaru shiya	[paru siya]	<i>paru, qusiya</i>
130	白けたる米	mehegai padai	[behegay paðay]	<i>behege, paye</i>
131	何時好き天氣にならふか	Shikonnoan ^{ヨロシイ} maru karatu.	[səkunuan malu karat]	<i>sukunuan, malu, karac</i>
132	井戸に釣瓶あり	Nekan karu vuvun.	[niqan kulu bubun]	<i>niqan, kulu, bubun</i>
133	汝は乳汁を飲め	Yē jach mūnu ishio.	[eðah munuh isu]	<i>eyah, mununuh, isu</i>
134	鶏の雛は一ツ二ツ三ツ四ツ五ツあり	Win, daha, telu, shipat, lima gaga wawa roduhu.	[uin daha teru sepat lima gaga wawa rodux]	<i>uin,¹² daha, teru, sepat, rima, gsaga, wawa, rodux</i>
135	汝は酒を飲めよ	Agach ima shinawo.	[aguh imah sinaw]	<i>aguh, imah, sino</i>
136	我は肉を食ふ	^{食フ肉} Mekan heji yakko	[mekan heði yaku]	<i>mekan, hei, yaku</i>
137	我は茶を飲む	Mahon shiyau yakko tikuhu.	[mahun sinaw yaku tikuh]	<i>mahun, sino, yaku, tikuh</i>
138	今日は雨降らぬ	^{ナシ} Uka ^雨 kamnjuhu ^{今日} sada.	[uka qəmuyux saða]	<i>uka, qumuyux, saya</i>
139	汝の蕃社から此處に来るに何日かゝるや	^{来ル社何日蕃ク} Mezaha Alan kijalavi deho ^{此處} hini.	[meðah alaŋ piða rabi dehuq hini]	<i>meyah, alaŋ, piya, rabi, dehuq, hini</i>
140	七つ眠て来る	Mutaké pitu lavi meza hini.	[mətaqi pitu rabi meðah hini]	<i>mutaqi, pitu, rabi, meyah, hini</i>
141	汝は今晚此處に泊が宜し	^泊 Matakach ^ル hini yam.	[mətaqi hini yami]	<i>mutaqi, hini, yami</i>
142	人を殺すは悪事なり	Nokan pakkón seleyakka.	[naqah paqun seediq]	<i>naqah, paqun, seediq</i>
143	汝等は人を殺す勿れ	^{悪シ} Nskach ^殺 pakkón ^人 sheleyakka ^{ナヨ殺ス} iya shilipakka. ¹³	[naqah paqun seediq iya səlipaq]	<i>naqah, paqun, seediq, iya, sipaq</i>
144	あの山は何と云う乎	^何 Mānon ^名 gadan ^山 lumikkon.	[maanu ŋaðan ləmiqu]	<i>maanu, ŋayan lumiqu</i>
145	今夜汝の家に泊らん	Mutakach sapach ishio sada.	[mətaqi sapah isu saða]	<i>mutaqi, sapah, isu, saya</i>
146	汝は少し不快なりや	Nāluhu ishio.	[narux isu]	<i>munarux, isu</i>
147	蕃丁二三人を呼び來れ	^{行ケ呼フ蕃丁二人} Ūsa magalu risan daha ^{三人} matelu.	[usa maŋal risaw daha ma teru]	<i>usa, maŋan, riso, daha, ma, teru</i>

¹²現代パラン方言では用いられない形式だが表中のように再建されうる（脚注 21 参照）。

¹³「殺す」に相当する語は [səlipaq] というように音韻的に解釈したが、鳥居（1901）の表記では r と l に混乱が見られ、鳥居（1901）の r が現代の r と l の両方、鳥居の l が現代の r と l の両方に相当することからすれば、[səripaq] とも解釈できる。なお、この語は現代セデック語パラン方言では *sipaq* である。現代では語頭子音 s に後続する al（または ar）は見られない。この al（または ar）は、落合（2022:11）がセデック語に見られると述べる化石前方接中辞の形式と一致するため、この化石前方接中辞が挿入されている可能性もあるが、化石化した接頭辞ならば、それがなぜ現代の形式では失われたのが不明である。または、20 世紀初頭の時点では化石化した接頭辞ではなく、何らかの機能を持ち、生産的に用いられる接頭辞であったのかもしれない。また、これに相当する語は荒尾（1898）では lipak と表記され、落合（2020:38）による音韻的解釈では [lipaq] となっている。この形式は [səlipaq]（または [səripaq]）から第一音節が消失していると考えられる。

148	此道を案内せよ	先へ■ツ道 Ishio mugela yelu.	[isu mægela elu]	isu, mugeela, elu
-----	---------	-----------------------------	------------------	-------------------

4. おわりに

本稿は鳥居（1901）に記録されたセデック語パラソ方言について個別の語の単位の注釈を、現代セデック語パラソ方言を参照することで示した。本稿が示した注釈が今後のセデック語の研究や他のオーストロネシア諸語の研究に資することを望む。

付録 1¹⁴

aguh こちらへおいで；*alan* 集落、村；*bagah* 木炭；*bale* 本物、真実、とても；*baluŋ* 卵；*beebu* 打つ；*behege* 白い；*beheni*¹⁵ 鳥；*beru* 子豚；*beyax* 力；*bubun* 井戸；*bugihun* 風；*burigun* 売買する (*burig-un*； buy-UVP)；*butakan* 竹；*butunux* 石；*caman*¹⁶ 夜明け；*cida* 枝；*cubeyo* 以前、昔；*daha* 二；*dehuq* 到着する；*didin* 手に提げて運ぶ；*dumidin* 手に提げて運ぶ (*d<um>idin*； <AV>carry)；*egu* 多い；*ekan* 食べる；*elu* 道；*eyah* 来る；*gaga* あれ、～にある；*gakac* 腰掛、椅子；*ha* 終助詞；*hako* 梯子、橋；*hari* 多少、少し、やや；*haya*¹⁷ あれ；*haruŋ* 松明；*hei* 実、肉；*hini* ここ、こちら；*hiya* あそこ；*hubajan* 小銭；*hubaro* 人が多い；*huliŋ* 犬；*hurui* 明かりをつける (*huru-i*； light.up-UVP/UVL.IRR)；*huwa* どのようにする；*ido* 飯；*ima* 誰；*imah* 飲む；*ini* 否定辞；

inu どこ；*isu* 二人称単数独立形；*ita* 一人称複数包括形、こちらへよこせ；*iya* 禁止を表す否定辞；*karac* 空、天；*kari* 話、言葉；*kela* 知る；*kenu* どれ；*kere* 芋などを入れるための袋；*kiya* それ；*ku* 一人称単数非独立形；*kui* 虫；*kulabuy* 紙；*kuxun* 好む (*kuxun*； like.UVP)；*kulu* 箱；*kumuciya* きび砂糖；*kunepah* 畑仕事をした (*k<un>epah*； <UVP.PST>work.in.field)；*laqi* 子供；*lebi* 閉じる (*leb-i*； close-UVP/UVL.IRR)；*lijis* 泣く；*lukus* 衣服；*lumawa* 呼ぶ (*l<um>awa*； <AV>call)；*lumijis* 泣く (*l<um>ijis*； <AV>cry)；*lumiŋu* 山；*lumujeluj* 考える (*l<um>ujeluj*； <AV>think)；*ma* 接続詞；*maanu*¹⁸ 何；*maha* これから行く；*mahu* 衣類を洗う (*mahu*； AV.wash.cloth)；*mahun* 飲む (*mah-un*； drink-UVP)；*malu* 善い；*manu* 何；*manjan* 取る (*m-ajan*； AV-take)；*mapa* 背負う (*m-apa*； AV-carry.on.back)；*mege* 与える (*mege*； AV.give)；*mekan* 食べる (*m-ekan*； AV-eat)；*meyah* 来る (*m-eyah*； AV-come)；*mimah* 飲む (*m-imah*； AV-drink)；*misu* 一人称単数属格・二人称単数主格かばん型代名詞（非独立形）；*mita*¹⁹ 見る (*m-ita*； AV-see)；*mudeŋu* 乾いた (*mu-deŋu*； sv-dry)；*muduh* 焼く (*m-uduh*； AV-bake)；*mugeela* 先導する (*mu-geela*； sv-lead)；*mugusama* 青い (*mugu-sama*； sv-green)；*muhulis* 笑う (*muhulis*； sv.laugh)；*muhuŋin* 死ぬ (*mu-huŋin*； sv-die)；*mukaxa* 明後日；*mukela* 知る

¹⁴略号一覧：AV 動作主態、FUT 未来、IRR 非現実相（否定辞の後ろに用いられる形式だが、否定辞を伴わない場合は命令を表す）、PST 過去、RCPL 相互、SV 静態動詞、UVC 非動作主態・状況主語、UVL 非動作主態・場所主語、UVP 非動作主態・対象主語、VZR 動詞化。

¹⁵この形式の自由交替形は *qubeheni* である。

¹⁶この形式は古形であり現代セデック語パラソ方言ではあまり用いられない (Ochiai 2019: 137)。

¹⁷この形式は古形であり現代セデック語パラソ方言では接頭辞の付いた派生形 *mucahaya* 「そのように行く」に残るのみである (Ochiai 2022: 5)。

¹⁸この形式の自由交替形は *manu* である。

(*mu-kela*; sv-know) ; *mulawa* 呼ぶ (*mu-lawa*; AV.fut-call) ; *mulukus* 服を着る (*mu-lukus*; sv-wear) ; *munarux* 病んだ (*mu-narux*; sv-sick) ; *munekan* 食べた (*m<un>-ekan*; AV<PST>-eat) ; *muneyah* 来た (*m<un>-eyah*; AV<PST>-come) ; *mununuh* 乳を吸う (*mu-nunuh*; sv-suck.breast) ; *muqalux* 黒い (*mu-qalux*; sv-black) ; *muqaras* 嬉しい (*mu-qaras*; sv-happy) ; *muqedin* 女性 ; *musa* 行く (*m-usa*; AV-go) ; *musekuy* 寒い (*mu-sekuy*; sv-cold) ; *museyay* 怒る (*mu-seyay*; sv-angry) ; *mutahu* 焚火をすする (*mu-tahu*; sv-make.fire) ; *mutanah* 赤い (*mu-tanah*; sv-red) ; *mutaqi*²⁰ 眠る (*mu-taqi*; sv-sleep) ; *muteji* 満腹である (*muteji*; sv-eat.to.full) ; *mutilux* 熱い、暑い (*mu-tilux*; sv-hot) ; *muure* 飢える (*mu-ure*; sv-hungry) ; *nami* 二人称複数代名詞 (独立形) ; *nanaq* 自身で、一人で、それだけで ; *naqah* 悪い ; *niqan* ある (*niq-an*; stay-UVL) ; *nyayan* 名前 ; *nyio* 猫 ; *paqun* 殺す (*paq-un*; kill-UVP) ; *paru* 大きい ; *paye* 稲 ; *paqun* 刈る (*paq-un*; chop-UVP) ; *pehepah* 花 ; *pitu* 七 ; *piya* 幾つ ; *pulabu* 雲 ; *puniq* 火 ; *puqun* 食べる (*puq-un*; eat-UVP) ; *purejo* 互いに話す (*pu-rejo*; RCPL-speak) ; *pusai* 置け (*pusa-i*; put-UVP/UVL.IRR) ; *pusu* (木の) 根本 ; *qaro* 黙れ ; *qolic*

鼠 ; *qubeheni* 鳥 ; *qubusuran* 年上の兄弟 ; *qucurux* 魚 ; *quhuni* 木 ; *qumiguc* 咬む (*q<um>iguc*; <AV>bite) ; *qumita* 見る (*qumita*; <AV>see) ; *qumuyux* 雨が降る (*q<um>uyux*; <AV>rain) ; *quqeya* 物、道具 ; *qusiya* 水 ; *quwaq* 口 ; *rabi* 夜 ; *rima* 五 ; *riso* 青年 ; *rodux* 鶏 ; *ruqenux* 鹿 ; *rusuq* 涙 ; *sa* 伝聞を表す助詞 ; *sapah* 家 ; *sapic* 鞋 ; *sari* タロイモ ; *saya* 今、今日 ; *seediq* 人 ; *sepac* 四 ; *sino* 酒 ; *sipaq* 殺す ; *su* 二人称単数非独立形 ; *sudu* 草 ; *sukiya* 飛ぶ ; *sukunuan* 何時だったか (過去) ; *sulamaq* 燃える ; *sumais* 縫う (*s<um>ais*; <AV>sew) ; *sumalu* 作る ; *sumbirac* やかましい (*s<um>-birac*; VZR<AV>-ear) ; *sumiliq* 尋ねる (*s<um>ilij*; <AV>ask) ; *suqada* 投げる (*su-qada*; UVC-throw) ; *suqama* 燃える ; *taqi* 眠る ; *teru* 三 ; *tikuh* 小さい ; *tudiyun* 蜂の一種 ; *tuleuj* 座る (*tu-leuj*; sv-sit) ; *tumabun* 耕す (*t<um>abun*; <AV>cultivate) ; *tumalaq* 走る (*t<um>alaj*; <AV>run) ; *tutij* 落ちる ; *uin*²¹ 一 ; *uka* 無い (否定辞) ; *umbahay* 聞く (*um-bahay*; AV-hear) ; *usa* 行く ; *uxe* 違う (否定辞) ; *wada* 行った、去った ; *waso* 葉 ; *wawa* 動物の仔 ; *yaku* 一人称単数独立形 ; *yami* 二人称複数独立形 ; *yamu* 二人称複数独立形

付録 2

頁 ; 行	誤	正
117; 1	51. nose: muhin [muhiŋ] <i>muhiŋ</i>	51. nose: muhin [muhiŋ] <i>muhiŋ</i>
117; 7	57. lip: pudahau [pudahuŋ] <i>pudahauŋ</i>	57. lip: pudahau [pudahuŋ] <i>pudahauŋ</i>
118; 5	87. skin: ravui [labuy?] ---	87. skin: ravui [labuy] <i>kulabuy</i> ²²
118; 14	96. ancestor: paije vake [paði baki] <i>pai baki</i>	96. ancestor: paije vake [pai baki] <i>pai baki</i> ²³

¹⁹ この形式の自由交替形は *qumita* である。

²⁰ この形式の自由交替形は *mutaqi* である。

²¹ この形式は荒尾 (1898: 29) にも win 「1」として収録されているため、この時代のセデック語パラソ方言では用いられていた形式と考えられるが、現代セデック語パラソ方言では用いられない (代わりに *kiŋan* を用いる)。また、セデック語における語の典型的な音節数は 2 音節であるため、*uin* は二音節であると推察したが、語頭の分節音が半母音 w である可能性もあり、その場合は *win* という一音節の語になる。

²² 鳥居 (1900b: 73) の *ravui* は、Ochiai (2018: 118) の段階では不明としていたが、本稿では、項目 86 に同一表記の *ravui* が見られるため、*kulabuy* に相当すると推定した。但し、この語は「紙」の意味である。「肌」は *quraqin* である。

²³ 鳥居 (1900b: 73) の *paije* における *je* の部分は音声的ノイズと考えられる。

118; 19	101. elder sister: vusura [bəsuran] qubusuran	101. elder sister: vusura [bəsuran] <i>qubusuran</i>
121; 2	172. rice: verashi padai [beraei paðay] <i>beras</i>	172. rice: verashi padai [beraei paðay] <i>beras paye</i> ²⁴
123; 4	239. dust: karáo i [ʔ] ---	239. dust: karáo i [kələbuy] <i>kulabuy</i> ²⁵
123; 7	242. river: jajum [yayum] <i>yayuy</i>	242. river: jajum [ðaðum] <i>yayuy</i>
123; 8	243. lake: jajum [yayum] <i>yayuy</i>	243. river: jajum [ðaðum] <i>yayuy</i>
123; 11	246. riverbank: jayum vatunuhu [ðayuy bəʔunux] <i>yayuy butunux</i>	246. riverbank: jayum vatunuhu [ðayum bəʔunux] <i>yayuy butunux</i>
124; 24	287. earthen pot: kaiyu [kayu(?)] ---	287. earthen pot: kaiyu [kayu] <i>kayu</i> ²⁶
124; 25	288. urn: tokki [tuqi] tuqi	288. urn: tokki [tuqi] <i>tuqi</i>
125; 7	303. sickle: kauye [kawi(?)] ---	303. sickle: kauye [kawi(?)] <i>kawin</i> ²⁷
126; 1	325. ring: takkaitul [teqetul(?)] <i>puʔequn(?)</i>	325. ring: takkaitul [təqetul(?)] <i>puʔequn(?)</i>
126; 10	334. clothes with patterns: ratan akkau [rataŋ akaw(?)] <i>rataŋ ---</i>	334. clothes with patterns: ratan akkau [rataŋ rakaw] <i>rataŋ rako</i> ²⁸
127; 13	361. short: de ^ʳ yako [dəeɸu] <i>dehequ</i>	361. short: de ^ʳ ko [dəeɸu] <i>dehequ</i>
128; 3	376. go up: musa varau <i>mosa baro</i>	376. go up: musa varau [musa baraw] <i>mosa baro</i>
128; 13	386. strong: ve ^ʳ zaha [unbeðax] <i>mbeyax</i>	386. strong: ve ^ʳ zaha [unbeðax] <i>mbeyax</i>
128; 14	387. weak: ine vezaha [ini bðax] <i>ini kubeyax</i>	387. weak: ine vezaha [ini beðax] <i>ini kubeyax</i>
129; 28	430. forget: ini kela <i>ini kela</i>	430. forget: ini kela [ini kela] <i>ini kela</i>
130; 21	451. enter: meja hini [meyah hini] <i>meyah hini</i>	451. enter: meja hini [meðah hini] <i>meyah hini</i>
134; 18	Ochiai (2015)	Ochiai (2016b)
141; 4	282 jajum [ðaðum] “river”	242 jajum [ðaðum] “river”
141; 5	236 jayum [ðayum] “river”	246 jayum [ðayum] “river”

参考文献

- 荒尾英馬 (1898) 『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』手稿.
- 浅井恵倫 (1954) 「台湾言語学はどこまで進んだか?」『民族学研究』18: 12-19.
- Bullock, Thomas L. (1874) Formosan dialects and their connection with the Malay. *China Review: Or Notes and Queries on the Far East* 3: 38-46.
- Ochiai, Izumi (2016) Bu-hwan vocabulary recorded in 1874: Comparison with Seediq dialects. *Asian and African Languages and Linguistics* 10: 287-324.
- Ochiai, Izumi (2018) Ryuzo Torii' s Paran Seediq Glossary (1900): Annotation and observation. *UST Working Papers in Linguistics* 10: 113-143.
- Ochiai, Izumi (2019) “Morrow” in Seediq. *The Kobe Gaidai ronso* 70(1): 131-144.

²⁴但し、精米の意味では *beras* のみで表現する。

²⁵鳥居 (1900c: 100) の *karáo*i について、Ochiai (2018: 123) の段階では不明としていたが、本稿では *kulabuy* に相当すると推定した。但し、この語は「紙」の意味である。本稿では項目 86 に「紙」が挙げられている。「塵」は *quburic* である。

²⁶鳥居 (1900c: 100) の *kaiyu* について、Ochiai (2018: 124) の段階では不明としていたが、本稿では *kayu* に相当すると推定した。

²⁷鳥居 (1900c: 101) の *kauye* について、Ochiai (2018: 125) の段階では不明としていたが、本稿では、本稿では *kawin* に相当すると推定した。

²⁸鳥居 (1900c: 101) の *akaw* について、Ochiai (2018: 126) の段階では不明としていたが、本稿では *rako* 「まだら模様」に相当すると推定した。

- 落合いずみ (2020) 『十九世紀末のセデック語資料『埔里社撫墾署管轄北蕃語集』—百余年後の言語学的考察—』札幌: 北海道大学アイヌ・先住民研究センター.
- 落合いずみ (2022) セデック語の方言比較から浮き彫りになる化石接中辞『アイヌ・先住民研究』2: 1-29.
- Ochiai, Izumi (2022) Reconstruction of Atayalic demonstratives and beyond. *Northern Languages Studies* 12: 1-20.
- 落合いずみ (2024) セデック語の二人称代名詞—指示詞・移動動詞・三人称代名詞との関わりについて—『北海道方言研究会会報』100 (近刊)
- 鳥居龍蔵 (1900a) 「埔里社方面にて調査せし人類学的事項」『東京人類学会雑誌』174: 473-478.
- 鳥居龍蔵 (1900b) 「台湾埔里社霧社蕃の言語 (東部有黥面蕃語)」『東京人類学会雑誌』176:71-74.
- 鳥居龍蔵 (1900c) 「台湾埔里社霧社蕃の言語 (東部有黥面蕃語)」『東京人類学会雑誌』177: 100-104.
- 鳥居龍蔵 (1901) 「台湾埔里社霧社蕃の言語 (東部有黥面蕃語)」『東京人類学会雑誌』178: 133-137.